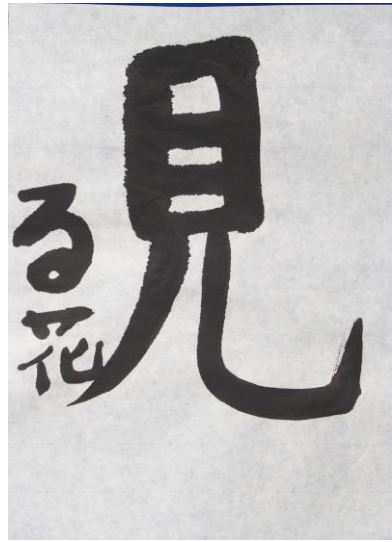


四月 書道作品

書評 藤波礼子

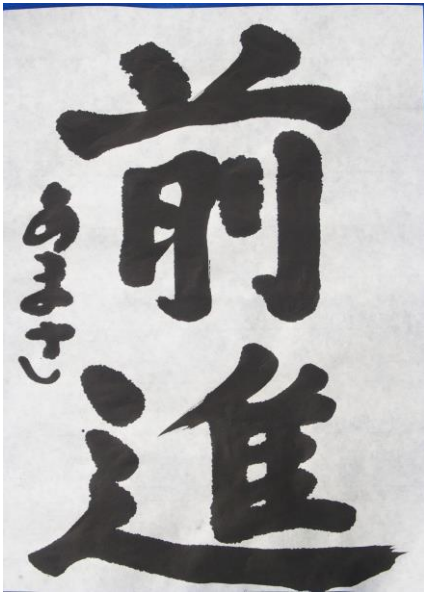


2年 岡部梨唯子

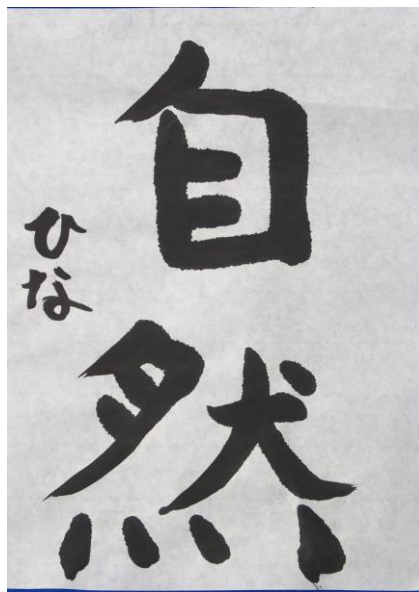


2年 実川瑠花

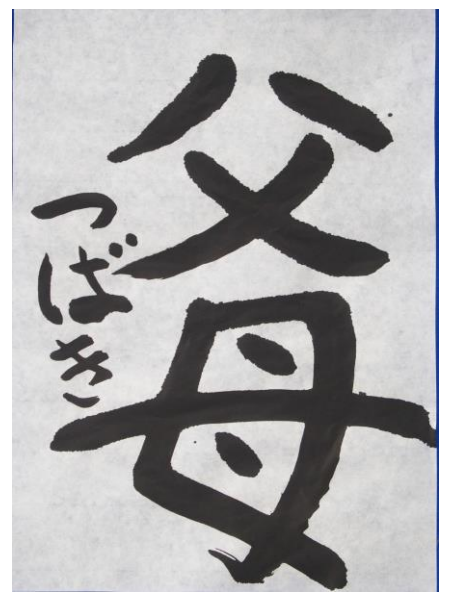
瑠花さん 墨をたっぷりつけ、大きな気分で堂々と書けました。はらいやはねをていねいに書いています。
梨唯子さん 筆を立てて、思い切って大きく書けましたね。すっきりとして、中心が通っています。名前がよい。



古宮あまさ



4年 横田妃菜



3年 横田椿

椿さん のびのびとしたおおらかな線です。中心が通っていて、落ち着きのある良い作品です。
妃菜さん 筆を立てて集中して書きました。「然」の字が、どっしりとしています。名前はもう少し大きく。
あまささん 力強く生き生きとした線質が素晴らしいです。紙いっぱい堂々とおさまった作品です。

【書の書き方】

書く前の筆をもった姿で作品の大半はきまります。一度たっぷり墨をふくませてからすずりの上でいく度も筆をならして穂先をととのえます。そして、一度墨をつけたら、あとは墨をつけたさないで一度に一字は書いてしまうようにして下さい。

次によく手本をみます。まず全体の感じを味わいます。次に筆勢をみます。そして、筆のいれる方向はみなちがっていますので、いれる方向と線のそり方のちがいを、止め方はしっかりとめるか、切れたようにとめるか等、線の太さ細さ、速さのちがいを、そして一番大切な空間をよくみつめます。

いよいよ書く時、一番大切なのは筆脈ということ。一本の線と線の間が切れないうちに空間をしっかりと書いて下さい。

体で書くということ、墨をつけた筆を横にひく時は体を横に動かすことによつて書き、縦の場合は体をうしろに引きながら書くということ。体で書くこととても楽に書けます。

穂先をたてるのが大切で、初心のうちには筆をまっすぐ、天の御柱のように持ちます。

指の先だけで持つようにすると自然と筆が立ちます。

（「生命の教育」誌よ）